

千葉県内初の石油蒸留塔

伝えたい千葉の産業技術 100 選

登録番号	第021号
名称(型式等)	第1石油蒸留塔 コスモ石油株式会社千葉製油所
所在地	千葉県市原市五井海岸2番地
設立年	昭和37(1962)年

選定理由

石油蒸留塔(じょうりゅうとう)とは、350~400℃に加熱されて送り込まれた原油を、沸点の差によって石油ガス、ナフサ、ガソリン留分、灯油留分、軽油留分、残油に分離するための装置です。昭和31(1956)年「千葉県産業振興3か年計画」が策定され、東京湾岸の埋め立て構想が打ち出され、同年、コスモ(旧丸善)石油株式会社は千葉県市原市五井地域に製油所の建設を決定し、昭和37(1962)年12月に千葉県内初の石油蒸留塔が完成しました。

当時の石油消費は、東京、大阪といった大都市周辺に集中していました。蒸留塔、千葉製油所の操業によって、石油製品需要が全国の40%以上にも達する東日本市場への製品の安定供給が可能となりました。また、大手企業や日本国有鉄道(当時)、防衛庁関係への納入も可能となり、人々の生活にも大きな影響を与えました。

建造物となると通常は陸上で組み上げられると思いますが、コスモ(旧丸善)石油千葉製油所のシンボルとなったこの蒸留塔は、三菱(旧新三菱)重工業株式会社神戸造船所で船のように造られ、昭和37(1962)年2月、海上輸送のために進水式が行われました。塔はタグボートに引かれ、神戸港を出発、潮岬、御前崎を通り、4日かけて五井まで海上を曳航されました。千葉製油所岸壁に横付けされ、クレーンで陸揚げされた後、建設現場まで約1kmの道のりを4台の強力なウインチで2週間かけて移動しました。その後、40mのクレーンから、塔の3分の1の部分にワイヤーを取り付け、釣り上げながら下部を移動させ、垂直に蒸留塔を建てあげ、ボルトで固定されました。このようにして、製油所のシンボルとなった蒸留塔は、昭和38(1963)年2月創業当時、50,000バレル/日を生産し、京葉工業地域に基盤を持つ多くの企業へ製品(LPガス・ガソリン・灯油・軽油)を供給していきました。

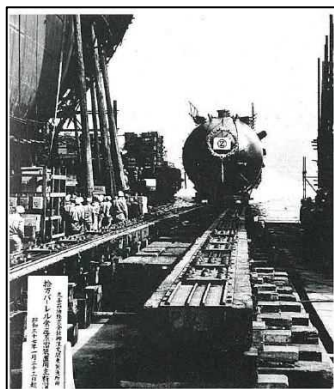


写真1: 1号蒸留塔進水式(昭和37年)



写真2: 1号蒸留塔全景(昭和38年)

協力: コスモ石油株式会社

参考資料: 平成4年度 千葉県工業歴史資料調査報告書(千葉県立現代産業科学館)